ハナショウブ

かたやま はるゆき展

2015.11/5-11/10

＊画像･イラスト等の保存･無断使用･転載･二次利用等は堅くお断り致します＊

ハナショウブ（あやめ科）

野山に自生するハナショウブの改良が進み、観賞用に美しい園芸品種が作られた。紫・白・赤紫と色も様々。大雨の後、強い水の流れに倒されても、花は立ち上がって力強く咲こうとしている。

キブシ

ナガミヒナゲシ

シラン

片山 治之　- 略 歴 -

1969 年 3月　多摩美術大学 グラフィックデザイン科卒業
　　4月　朝日新聞社　デザイン部入社
1990 年　朝日新聞『声』欄の花のカットを担当する。
1998 年　朝日新聞社退職
　　イラスト集「花 はな 華」出版

2005 年　朝日新聞　第 2 兵庫版に“野の花通信”を担当
2007 年　季刊「銀花」（文化出版局）に掲載される
　　“白と黒のあわいに咲く・片山治之の野の花画帖”
2011 年　イラスト集「野の花通信」（東方出版）出版
現 在　朝日カルチャーセンター講師
　　毎年秋に、大阪・茶屋町画廊
　　兵庫県川西･画廊シャノワールで個展を開催

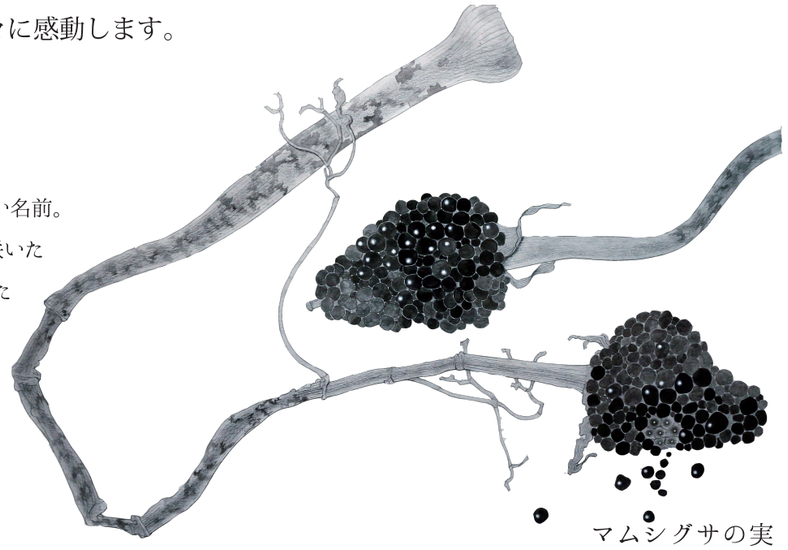
フリーのイラストレーターとしてモノクロで“野の花”を描く

栃の実

開催されている『片山 治之　野の花 展』では、毎年大小様々な草花が咲き乱れます。今回、会場には40点の作品が並び､花の名前や先生の解説を読み楽しむ事ができました。描かれた作品はとても幻想的で、花びらの柔らかな影や茎の色までも色付いて見えてくる様にも感じます。作品の中には八百屋などにも置かれている物や、反対に毒を持つ物も展示されています。『野の花』は花屋に並ぶ事の多い外来種とは異なり､日本の四季や自然に合わせて咲いているため､優しい色合いの花々が多く感じられます。そんな花々に季節を感じ、お花見や菖蒲湯など文化の中に組み込まれ、古来より今日まで共存して来ました。普段の生活の中では考えない様な自然で生き抜く厳しさ、知恵や力強さを植物は持ち合わせていると云う事を再確認させ、また出会ったことのない花々に感動します。

マムシグサの実（さといも科）

茎の模様がマムシに似ていることから付いた怪しい名前。初夏、蛇があたまをもたげたような不思議な花が咲いた後、丸い粒が集まった実をつける。びっしり詰まった実は重く柔らかい茎はすぐに倒れてしまう。パラパラこぼれる真っ赤な実は有毒で小鳥も素通り。やっぱりアヤシイ。



マムシグサの実